

収支内訳書（おもて）記入例

収支内訳書の該当する箇所に
記入してください。

翌年出荷をする農産物
(じゃがいもなど) がありま
したら記入してください。

減価償却費は、収支内訳書(うら)の⑩の金額を記入しましょう。

毎年同程度の数量を
翌年へ繰り越す場合
には、省略しても結
構です。

農業用倉庫の火災保険料のように収支内訳書の科目にない農業経費は、自由科目欄「③～⑦」に書きます。

⑯専従者控除を取るかどうかは、この金額を見て判断しましょう。

※専従者控除の対象にした親族は、税制上の扶養親族にとれません。専従者に税金がかかる場合もあります。

(1) ⑯ ÷ (専従者数 + 1) または
 (2) 配偶者86万円・配偶者以外50万円のどちらか少ない方の金額を書きましょう。

住 所	南丹市園部町小桜町47	業種名	水稻・麦農業	依頼 税理 士等	事務所所在地
フリガナ 氏 名	ナンタン サスケ 南丹 佐助	農園名			氏 名 (名称)
生年月日	昭和23 年 1 月 1 日	電番 電話号	68-0004		電話号

令和 年 月 日

(自) 日 日 至 日 日

番号

科 目	金額	(円)	科 目	金額	(円)
販 売 金 額	①	7 9 1 9 5 6	修 繕 費	⑯	1 5 9 3 2
家 事 消 費 金 額	②	9 0 0 0 0	動 力 光 热 費	⑰	5 0 0 0 0
事 争 消 費 金 額			作 業 用 衣 物 費	⑱	
雜 収 入	③	4 6 3 0 0	農 業 共 活 振 金	⑲	
小 計	④	1 9 2 8 2 5 6	荷 造 運 貨 手 数 料	⑳	
(①+②+③)			土 地 改 善 費	㉑	3 0 6 0
農 產 物 の 棚 卸 高	期 首	⑤	火 灾 保 险 料	㉒	5 3 2 0
	末 期	⑥		㉓	
計	(④-⑤)+(⑥)	⑦ 1 9 2 8 2 5 6		㉔	
雇 人 費	⑧			㉕	
小 作 料・貸 借 料	⑨	1 5 0 0 0		㉖	
減 価 償 却 費	⑩	4 4 0 8 3 4		㉗	
貸 倒 金	⑪			㉘	
利 子 割 引 料	⑫			㉙	
租 稅 公 課	⑬	1 5 3 3 8	雜 費 つ	㉚	1 3 5 0 0
種 苗 費	⑭	9 3 3 4	農 產 物 以 外 の 棚 卸 高	㉛	
素 奢 費	⑮		期 首 ㉛	㉛	
肥 料 費	⑯	7 2 9 8 0	棚 卸 高 期 末 ㉛	㉛	
飼 料 費	⑰		經 費 か ら 引 き 引 用 料	㉛	
農 具 費	⑱		牛 馬 等 の 育 成 費 用	㉛	
農 衛 生 費	⑲	1 3 0 2 0	小 計 (⑬-㉛) ㉛	㉛	1 1 5 3 4 8 4
諸 材 料 費	㉐		経 費 計 (㉖~㉙+㉛) ㉛	㉛	1 6 0 9 3 1 8
			専 徒 者 控 除 ㉛	㉛	1 3 1 8 9 3 8 0
			所 得 金 額 (㉛-㉛)	㉛	1 3 1 8 9 3 8

○雇人費の内訳					
氏名・住所又は業種名	日数	現金 物	合計	所得税及び復興特別 所得税の源泉徴収税額	
その他(人分)	通常	円	円	円	
計		(8)		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	

○小作料・賃借料の内訳				
支 払 先 の 住 所 ・ 氏 名	小 作 料 、 貸 耕 料 等 の 別	面 積 ・ 数 量	支 払 額	
南丹市八木町 富本次郎	小作料	10 @kg	15,000	円

○事業専従者の氏名等			
氏 名	(年齢)	続 柄	従事月数
(歳)			

延べ従事月数

⑯専従者控除をとる場合は
ここに詳細を書きます。以下の
見本のようになります。

兌本のように書きなさい。									
	小計 (②～⑤までの合計)	計	(13)		7	5	5	4	8
	経費 計 (⑧～⑫までの合計+13)		(14)		1	8	8	8	0
	専従者控除前の所得金額 (⑦+⑭)		(15)		1	5	3	9	0
	専従者控除		(16)		7	6	9	5	0
	所得金額 (15)-(16)		(17)		7	6	9	5	0
	⑯のうち、肉用牛について 特例の適用を受ける金額								

農作業を手伝ってもらった場合に対価として支払うお礼の明細を書きましょう。

「どこの誰が」「何日手伝ってくれた」「現金でいくら」もしくは
「現物でどれくらい」「合計これだけは払った」

なお、支払い金額から所得税を源泉徴収している場合は「所得税及び復興特別所得税の源泉徴収税額」に源泉徴収した金額を書きましょう。

小作料などの詳細を書きましょう。

「どこの誰から」「どれだけ借りて」「その代金をこれだけ払った」

という内訳を書きましょう。

収支内訳書（うら）記入例

収入の明細を書きましょう。

「作物の種類」
「作付した面積」
「販売金額」
「家事・事業消費金額」

という内訳を書きましょう。

棚卸高は毎年同程度の数を翌年へ繰り越す場合には、省略しても結構です。

農業用の資産(10万円以上)の減価償却費を計算します。左から順に記入することにより計算できます。

〔旧定額法で平成19年3月31日以前に購入したもの〕
一般的の償却資産は①取得価額×0.9が②の金額になります。

[定額法で平成19年4月1日以降に購入したもの]一般の償却資産は、①取得金額が□の金額になります。

果樹・牛馬等の場合は
税務署にお尋ねください。

一括償却資産(取得価額が10万円以上20万円未満のもの)は3年間で1/3ずつ均等に償却できます。この場合は、①=□となり③は記載する必要はありません。

○収入金額の明細

「作付面積」「販売金額」「家事消費」「事業消費金額」を合計して書きましょう。

補助金などの雑収入の内訳を書きましょう。

〔本年中に取得した資産〕
①取得価額から②本年分
の償却費合計を差し引いた
金額を記入してください。

[前年以前に取得した資産] 前年の未償却残高（「取得価額-前年末までの償却費の累計」）から**④**本年分の償却費合計を差し引いた金額を記入してください。

面積や走行距離などの客観的な基準をもとに事業専用割合を記入してください。

○減価償却費の計

減価償却資産の名称等 (継延資産を含む)	面積又は数量	取得年月	⑦取得価額(録却保証額)	⑨償却基準になる金額	償却方法	耐用年数	⑩償却率又は改定償却率	⑪本年中分の償却期間	⑫本年分の普通償却費(⑨×⑩×⑪)	⑬特別償却費	別	⑭本年分の本償却費合計(⑫+⑬)	⑮事業専用割合	⑯本年分の必要経費算入額(⑭+⑮)	⑰未償却残高(期末残高)	摘要			
																年	月	日	
軽量鉄骨造農小屋	40m ²	年16・8	2,200,000円	1,980,000円	旧定額	17	年0.058	12月	22,000円			22,000円	50%	11,000円	44,000円	5%残存分償却			
トラクター	1台	4・3	1,500,000	1,500,000	定額	7	0.143	12	214,500			214,500	100%	214,500	677,750				
軽四トラック(中古)	1台	6・7	400,000	400,000	定額	2	0.500	12	200,000			200,000	40	80,000	100,000	中古資産			
田植機	1台	7・5	1,000,000	1,000,000	定額	7	0.143	8	95,334			95,334	100	95,334	904,666				
-括償却資産	—	7・8	120,000	120,000	—	—	1/3	12	40,000			40,000	—	40,000	80,000	散布機			
計															440,884				

(注) 平成 19 年 4 月 1 日以後に取得した減価償却資産について定率法を採用する場合にのみ⑦欄のカッコ内に償却保証額を記入します。

○墨樹・牛馬等の育成費用の計算（販売用の牛馬　受託した牛馬は除きます）

○木向一馬の有成貢用の田耕(版元市下の馬、支配した一馬は除きます)									
果樹・牛馬等 の名稱	取得・生産 定植等 の年月日	前年から の繰越額	育成費用の明細				⑥本年中に成 熟したものと 未だ加算する 金額(④-⑤)	⑦翌年への 繰越額 (④+⑧-⑤)	⑨、⑩、⑪の 欄の金額の 計算方法
			①本年中の種 苗費付	②本年中の肥 料、農薬等 の投下費用	③小計 (①+②)	④育成中の果 樹から生じた 収入金額			
		円	円	円	円	円	円	円	円
計					②				

◎本年中における特殊事情

耐用年数は、償却費を計算するための償却率を決定するためのもので、償却できる期間とは異なりますのでご注意ください。

経費算入する最初の年の償却期間は使用を開始した日によって決まります。